

## I. 事業の概要

平成 27 年度は、フェロー事業を中心に、学術談話会、豊田理研スカラー、特定課題研究の各事業をほぼ年初の計画通り実施いたしました。この内、フェロー事業では、リーマンショック後平成 24 年度には 7 名にまで減少していたフェローの人数を、フェロー事業拡充計画の 1 年目として、常勤、客員合わせて 5 名の採用を行い、合計 15 名に増員いたしました。また、新たな取り組みとしてフェロー主催の国際ワークショップを 2 件開催しました。さらに、学術雑誌 *Nature Communications* 誌に **Highlight** 論文として掲載された研究成果のプレス発表を行いました。これらの施策により、優れた成果の創出と発信の強化に努めて参りました。

豊田理研スカラー、特定課題研究の採択件数は、それぞれ 32 件、5 件で、平成 26 年度を上回り、過去最高となりました。なお豊田理研スカラーに関しては、より大きな研究成果創出を支援するため、1 件当たりの助成金を増額いたしました。

運営面では、平成 27 年度は役員、評議員の大幅な改選を行ないました。また、平成 26 年 3 月に井口洋夫前所長が急逝されて以降不在であった所長に、平成 28 年 1 月 1 日付で玉尾皓平理事が就任致しました。このような新体制の下、新たな施策や新事業の議論を開始致しました。

財政面では、運営費の主原資となる保有株式の配当収入が前年に比べ約 28% 増となった結果、平成 26 年度を上回る経常増減額となりました。この収益の一部を、平成 29 年度内の竣工を目指す「井口洋夫記念館(仮称)」の建設に向けて、平成 26 年度から 3 年計画で積立を開始した資産取得資金として、積み上げることいたしました。さらに、景気動向に大きく左右される株式の配当収入が大きく落ち込んだ場合でも、事業を継続させるために、財政基盤安定化基金として特定費用準備資金の積み立てを開始致しました。

以下、各事業および平成 27 年度特別に企画・推進した取り組みについて、実施内容を説明します。

# 1. 研究事業

## 1-1 フェロー事業

### (1) フェローと研究テーマ

平成 27 年度は新規に常勤フェロー 2 名、客員フェロー 3 名を採用し、常勤フェロー 8 名、客員フェロー 7 名の総勢 15 名で研究活動を実施いたしました。

常勤フェロー、客員フェローの研究テーマを、それぞれ表 1、表 2 に示します。  
研究内容および成果の詳細は、「豊田研究報告 No.69」に記載の通りです。

表 1 フェローと研究テーマ

	氏 名		研究テーマ
1	中村 新男	名古屋大学名誉教授	ナノ構造制御複合系の光物性制御
2	西田 信彦	東京工業大学名誉教授	物質電子状態の原子長実空間測定による物性理解
3	三宅 和正	大阪大学名誉教授	新規超伝導材料の理論的探索
4	森永 正彦	名古屋大学名誉教授	金属化合物の化学結合のエネルギー表現と水素貯蔵化合物の量子設計への応用
5	上田 寛	東京大学名誉教授	新奇な物性を示す物質の開発
6	野上 正行	名古屋工業大学名誉教授	ガラス中でのガス高速移動現象の解明とその応用
7	(新任) 河本 邦仁	名古屋大学名誉教授	高効率熱電変換材料の化学創製
8	(新任) 小島 憲道	東京大学名誉教授	光・スピン・電荷の相乗効果が拓く新しい分子磁性の開拓

表 2 客員フェローと研究テーマ

	氏 名		研究テーマ
1	菅原 正	神奈川大学教授 東京大学名誉教授	情報をもつ人工細胞複製系の構築
2	美宅 成樹	名古屋大学名誉教授	「生物とは何か？」の基本問題と生物物理学教科書の出版
3	植田 憲一	電気通信大学名誉教授	レーザー技術のパラダイムシフトを目指して — 熱レンズ効果のダイナミクス —
4	太田 隆夫	京都大学名誉教授	非平衡ソフトマターの構造形成とダイナミクス
5	(新任) 岩澤 康裕	電気通信大学教授 東京大学名誉教授	高度化 X 線吸収微細構造法等による触媒反応の先導的基礎研究
6	(新任) 斎藤 軍治	名城大学教授 京都大学名誉教授	有機超伝導体、量子スピン液体の研究
7	(新任) 竹添 秀男	東京工業大学名誉教授	液晶性アゾ dendrimer を含む液晶コロイド系の光誘起挙動の研究

## (2) フェロー研究報告会

フェロー研究報告会を6月、10月、2月の3回に分けて開催し、研究活動の成果を紹介いたしました。発表テーマ、発表者等の詳細を表3に記載いたします。

表3 フェロー研究報告会

第16回フェロー研究報告会			
日時	平成27年6月22日(月)	場所	豊田理化学研究所 オープンコミュニティ
聴講者	128名(役員/評議員:12、フェロー/元フェロー:25、一般:91)		
発表テーマ(発表者):			
①	高度化 X線吸収微細構造法等による触媒反応の先導的基礎研究	(岩澤康裕客員フェロー)	
②	有機超伝導体と量子スピン液体	(斎藤軍治客員フェロー)	
③	液晶を用いたマイクロ光メカニクス	(竹添秀男客員フェロー)	
④	3次元 Turing パターン	(太田隆夫客員フェロー)	
⑤	進化するベシクル型人工細胞に向けて —人工細胞における遺伝子型と表現型の相関—	(菅原 正客員フェロー)	
⑥	水素を新しいエネルギー源とする新領域の構築に向けて	(特定課題研究 代表者 樋口芳樹 教授)	兵庫県立大学大学院生命理学研究科
第17回フェロー研究報告会			
日時	平成27年10月29日(木)	場所	豊田理化学研究所 オープンコミュニティ
聴講者	94名(役員/評議員:14、フェロー/元フェロー:24、一般:56)		
発表テーマ(発表者):			
①	「モダンアプローチの生物科学」のエッセンス —生物システムのロバスト性—	(美宅成樹客員フェロー)	
②	金属化合物の化学結合のエネルギー表現と材料設計	(森永正彦フェロー)	
③	新奇強相関電子系物質の開発 —層状バナジウム酸化物における新奇な電荷秩序転移—	(上田 寛フェロー)	
④	ガラスにドーピングした希土類イオンの価数制御	(野上正行フェロー)	
第18回フェロー研究報告会			
日時	平成28年2月22日(月)	場所	豊田理化学研究所 オープンコミュニティ
聴講者	79名(役員/評議員:18、フェロー/元フェロー:23、一般:38)		
発表テーマ(発表者):			
①	カーボンナノチューブ—ポリマー複合系の励起エネルギー移動と電荷移動	(中村新男フェロー)	
②	超伝導体渦糸格子の刃状転位の STM 測定と相図	(西田信彦フェロー)	
③	スピン3重項超伝導体 $\text{Sr}_2\text{RuO}_4$ 状態における自発的誘起スピン磁化について	(三宅和正フェロー)	
④	固体レーザーの熱レンズ効果は制御可能か?	(植田憲一客員フェロー)	

### (3) 豊田理研ワークショップ

フェロー研究活動の一層の活性化を目的とした新たな取り組みとして、フェロー主催の豊田理研ワークショップを開始しました。平成27年度は表4、表5に示す2件の国際ワークショップを開催しました。

表4 第1回豊田理研ワークショップ

委員長	竹添秀男 客員フェロー
タイトル	TOYOTA RIKEN International Workshop on Bent-Core Liquid Crystals
開催日	平成27年11月16日(月)、17日(火)
開催場所	東京工業大学田町キャンパス、国際会議室
参加人数	55名(うち 海外15名)

表5 第2回豊田理研ワークショップ

委員長	三宅和正 フェロー
タイトル	TOYOTA RIKEN International Workshop -Strongly Correlated Electron Systems : Open Space between Heavy Fermions and Quasi-crystals-
開催日	平成27年11月17日(火)~19日(木)
開催場所	名古屋大学東山キャンパス
参加人数	57名(うち 海外10名)

## 1-2 名古屋大学「リーディング大学院」への協力

名古屋大学の要請にこたえ、2名の豊田理研フェローが客員教授として、「連携研究所講義(1単位)」を受け持ち、2日間にわたり豊田理研研究棟内にて名古屋大学大学院の学生22名の教育にあたりました。講義の概要を表6に示します。

なお、名古屋大学の「リーディング大学院プログラム」は、環境問題の恒久的な解決をもたらす国際的なリーダー科学者養成を目的とする国家プロジェクトです。

表6 リーディング大学院講義概要(自然科学連携講義Ⅲ)

学部・大学院	大学院	科目分類	B類	授業形態	講義
開講学期：6月15日(月)、6月16日(火) 教室：豊田理化学研究所			単位数：1 担当教員名：三宅和正、西田信彦		
(講義の目的とねらい) グリーン自然科学各分野の学問的背景や研究トピックスを、豊田理研フェローの集中講義を通じてインテンシブに学ぶ。					
(授業内容) (三宅和正)超伝導理論ミニマム 超伝導現象は金属の示す(自発的対称性の破れた)秩序状態であるが、磁性現象とともに凝縮系科学の大きな研究分野を成している。しかし、超伝導現象の華やかさとは裏腹に、その本質を理解するのは(磁性現象と同様に)簡単ではない。この講義では、1)超伝導の基本的な性質、2)それを理解するための現象論的な枠組み、3)超伝導の基本理論であるBCS (Bardeen-Cooper-Schrieffer)理論の概略、4)重い電子系に代表される強相関電子系における非BCS的超伝導状態がどのように発見され、理解されていったか、について概念の発展の流れにそって出来るだけ易しく(しかし、誤魔化さず)紹介し、最先端の話題についても触れる。					
(西田信彦)超伝導渦糸の観測とその物理 超伝導・超流動は量子力学が目で見えるかたちで現れている現象である。超伝導体にはある大きさ以上の磁場をかけると磁場が超伝導体中に侵入するものがある。強磁場発生、磁気浮上に使われる超伝導体はこの種類で、第2種超伝導体と呼ばれる。磁場は $h/2e$ ( $h$ :プランク定数、 $e$ :素電荷)の量子磁束単位で侵入する。この渦糸が運動すると電気抵抗ゼロで電流を流せず、また、磁気浮上も実現できない。原子を直接実験室で観測できる走査トンネル分光顕微鏡法(STM/STS:Scanning Tunneling Microscopy and Spectroscopy)を用いての超伝導量子渦糸の構造やその運動を測定した実験を画像や動画を見せて解説する。 1. 超伝導超流動の渦 2. 超伝導渦状態のいろいろな測定法 3. STM/STSの原理と超伝導研究 4. 超伝導渦の構造 5. 超伝導渦運動測定  ※2.の超伝導渦糸測定では、超低速ミュオンを用いた新方法も簡単に説明する。					

### 1-3 「豊田理研懇話会」の開催

豊田理研の新研究棟が完成したことを記念して、平成 24 年度から新研究棟のオープンコミュニティで「難しいことを、易しく」話していただくセミナー「豊田理研懇話会」を、フェロー研究活動活性化の一環として開催しております。平成 27 年度は 3 回開催いたしました。豊田理研関係者のみならず、近隣の大学、研究機関の方々にもご参加いただいて、活発な討議が行われ、懇話会の趣旨を満足するセミナーとして、平成 24 年度に始めて以来計 12 回を終えることができました。セミナー題目、講演者の一覧を表 7 に示します。講演内容は、「豊田研究報告 No.69」に記載しております。

表 7 平成 27 年度 豊田理研懇話会のテーマ

回	年月日	講演者	セミナー題目
1	平成 27 年 4 月 23 日(木)	国立天文台 台長 林 正彦氏	「現代の宇宙観と TMT」
2	平成 27 年 8 月 24 日(月)	近畿大学水産研究所 所長 宮下 盛氏	「クロマグロの完全養殖達成と産業化への現況」
3	平成 27 年 12 月 18 日(金)	九州大学理学研究院 教授、 理化学研究所仁科加速器研究センター グループディレクター 森田浩介氏	「新元素の探索」ー現代の錬金術ー

### 1-4 物性談話会

名古屋大学と共催で、東海地方の物性物理学研究者の啓発を図る場として活動しています。平成 27 年度は、8 回の談話会を開催いたしました。講演題目、講演者の一覧を表 8 に示します。昭和 38 年に発足以来、通算の開催回数は、豊田理研創立 70 周年記念講演会を含めて 377 回となりました。

表 8 平成 27 年度 物性談話会の活動

回	年月日	講演者	講演題目
1	平成 27 年 11 月 12 日(木)	筑波大学 教授 初貝安弘氏	トポロジカル相の普遍性:異方的超伝導からシリセン、ワイル/ディラック半金属まで
2	平成 27 年 12 月 3 日(木)	大阪大学 教授 川村 光氏	フラストレーションを通して新しい世界へ!
3	平成 27 年 12 月 4 日(金)	首都大学東京 教授 真庭 豊氏	カーボンナノチューブの制限空間を利用した物質開発と物性
4	平成 27 年 12 月 10 日(木)	理化学研究所 専任研究員 大島勇吾氏	高周波と強磁場を用いた物性研究 ー分子性物質から原子層物質への応用ー

5	平成 27 年 12 月 14 日(月)	材質・材料研究機構 MANA 主任研究者 筑波大学授 Gorberg Dmitri 氏	In situ HRTEM for nanomaterial property investigations
6	平成 27 年 12 月 18 日(金)	東北大学 講師 佐藤宇史氏	高分解能 ARPES で見た新奇トポロジカル物質の電子状態
7	平成 27 年 12 月 22 日(火)	京都大学 教授 高橋義朗氏	非標準型光格子中の冷却原子:局在と非局在
8	平成 28 年 1 月 12 日(火)	名古屋工業大学 教授 神取秀樹氏	光受容タンパク質の光物性と機能

## 1-5 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供する事を目的に、分子科学研究所と共催で開催しており、平成 20 年からは、一般市民にも公開しています。平成 27 年度は 4 回開催いたしました。講演題目、講演者の一覧を表 9 に示します。

平成 8 年に発足以来、本フォーラムの通算開催回数は、豊田理研創立 70 周年記念講演会を含めて 109 回となりました。

表 9 平成 27 年度 分子科学フォーラムの活動

回	年月日	講演者	講演題目
1	平成 27 年 5 月 14 日(木)	千歳科学研技術大学 特任教授 吉田淳一氏	『LEDが拓く近未来の植物工場』
2	平成 27 年 10 月 17 日(土)	分子科学研究所 准教授 繁政英治氏	『宇宙の光で見えない分子を探る』
3		宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙探査イノベーションハブ ハブ長 國中 均氏	『「はやぶさ」1号2号が拓く宇宙探査』
4	平成 28 年 2 月 5 日(金)	京都大学物質・細胞統合システム拠点 教授 上杉志成氏	『生物活性分子の新しい世界』

## 2. 研究助成事業

### 2-1 豊田理研スカラー

平成 27 年度は、表 10 に記載の 32 名の研究者に対し、規定の研究助成金を支給し、研究推進を支援するとともに、助成金贈呈書を授与しました。なお今年度から、より大きな成果創出を支援するために、1 件当たりの助成金を、これまでの 70 万円から 100 万円に増額いたしました。研究は年初に策定した研究計画にそって実施され、「豊田研究報告 No.69」に記載の成果を収めました。

表 10 平成 27 年度豊田理研スカラーの所属と研究テーマ

No.	大学	氏名	職位	研究テーマ
1	北海道大学	石田 洋平	助教	超分子化学的アプローチに基づく厚さ 1nm の革新的金属ナノシート合成
2		福地 厚	助教	抵抗変化メモリ応用に向けたナノ構造下における電場誘起型モット転移物質の物性探索
3	東京大学	鈴木 康介	助教	分子状金属酸化物クラスターを利用した高性能分子磁性材料の開発
4		南畑 孝介	助教	静電的相互作用を駆動力としたストレプトアビジンの結晶化現象の解明
5	豊橋技術科学大学	須田 善行	准教授	ナノメートルサイズの単一ソレノイドコイルのインダクタンス測定
6		中村 祐二	准教授	隣接炎の共鳴現象: 燃焼場の非定常ダイナミクス
7	名古屋大学	小山 剛史	講師	カーボンナノチューブ内において高い平面性をもつ導電性高分子の合成
8		出口 和彦	助教	強相関電子系準結晶に着目した新物性材料開発
9		新津 葵一	講師	低負担ヘルスケアに向けた低電圧バイオセンシング技術の開発
10	名古屋工業大学	岩田 達也	助教	酸化還元反応を示す補酵素結合型 DNA 酵素の作製
11		高木 幸治	准教授	環状有機化合物の構造を利用する円偏光発光材料の開発
12		中山 将伸	准教授	量子力学計算とインフォマティクスを融合したアプローチによる新規誘電性材料の探索
13	名城大学	才田 隆広	助教	化学還元法を用いた還元性酸化チタンの合成
14		神藤 定生	助教	合成生物学的に構築した光合成細菌によるバイオエチレンの高生産と Ethylenome の相乗機構の解明
15		土屋 文	准教授	反跳粒子検出法を用いたリチウム酸化物水素吸蔵貯蔵材料中の水素輸送機構評価手法の確立



16	豊田工業 大学	三輪 誠	准教授	文書の柔軟な検索に向けたキーワードと文書の意味表現の獲得
17	岐阜大学	大橋 史隆	助教	IV 族クラスレート膜の合成および電子物性評価
18		志賀 元紀	助教	補助情報を用いるテンソル因子化法における雑音モデルの一般化
19		柴田 綾	助教	非酵素系高感度遺伝子検出法の開発
20	三重大学	大野 和彦	講師	GPGPU 用高性能プログラミング処理系のスレッド・マッピング自動最適化手法
21		永井 滋一	助教	新規磁性体探索に供する高輝度電界放出型スピン偏極電子源の開発
22		矢代 大祐	助教	遠隔内視鏡手術用触覚鉗子のための腱駆動方法の開発
23	京都大学	浅野 圭佑	助教	環化付加による 1,5-ベンゾチアゼピンの迅速不斉構築
24		北田 敦	助教	ナノポーラススピネルの室温水溶液合成
25		薄 良彦	講師	蓄電池・燃料電池を活用したマルチエネルギーマネジメントの研究開発
26		瀬波 大土	助教	ナノスケールのエレクトロニクス・スピントロニクス材料の局所物性量による材料特性評価
27	大阪大学 基礎工	北河 康隆	准教授	外場により on/off の制御可能な単一分子電気伝導体の理論設計
28		劔 隼人	准教授	有機ケイ素ヘテロ環化合物を用いた触媒特性に優れる卑金属ナノ構造材料の創出
29	大阪大学 工学部	星本 陽一	助教	高反応性ルイス酸-ルイス塩基付加体を用いた温室効果ガスの吸着・分解と医薬品合成への応用
30		山崎 慎太郎	准教授	オイラー・ラグランジュ連携型物理シミュレーションに基づく機能構造の創成設計
31	九州大学	藏田 耕作	准教授	新規三次元細胞培養プラットフォームの開発と共有知財化
32		中野 道彦	准教授	微粒子誘電泳動を用いた電気的多検体同時 DNA 検出法の開発

## 2-2 特定課題研究

特定課題研究は、中長期的な視点から見て重要と思われる萌芽的な研究課題に取り組んでいる研究チームを激励し、その研究の進展を図り、新しい研究領域を開拓するための費用の一部を援助するユニークな制度です。平成27年度は、表11に記載の継続課題3件、新規採択課題2件の実施となりました。各研究代表者が中心となり、コアメンバーに関係者を加えた研究会が全国各地で計画的に開催され、新研究領域構築に向けた議論が深められました。詳細は「豊田研究報告 No.69」に記載いたしました。

表 11 平成 27 年度「特定課題研究」テーマ

No.	分類	大学	推進責任者	職位	研究テーマ
1	継続	東京大学	津村 幸治	准教授	制御・情報理論による生物システムのロバストネス解析と設計
2	継続	名古屋大学	竹中 康司	教授	巨大負熱膨張材料を用いた革新的熱膨張制御技術の開発
3	継続	愛知工業大学	江上 泰広	教授	感圧・感温塗料のフロンティア:分子センサの可能性と新展開に向けて
4	新規	東北大学	木村 宏之	教授	マルチプローブ融合利用による新奇強誘電体材料の物性解明
5	新規	大阪大学	長森 英二	専任講師	生体アクチュエーターを用いた持続可能な動力供給システムの創出

### 3. 広報活動

#### 3-1 「豊田研究報告」の刊行

研究者の研究業績の蓄積と発表のため、年1回刊行しています。平成27年度は、第68号を発行いたしました。常勤フェロー7名、客員フェロー4名、フェローOB1名、豊田理研スカラー30名、特定課題研究4件および豊田理研懇話会3件による合計49編の研究論文、レビューを掲載し、交換雑誌として広く大学、図書館等へ配付いたしました。

#### 3-2 ホームページの維持、管理

財団設立趣意書、沿革、公開情報等をまとめた「財団概要」、事業内容の詳細を記述した「事業紹介」の他、フェローの研究内容・成果を掲載した「フェロー紹介」、公募に関する情報をお知らせする「募集情報」、「トピックス記事」等をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたしました。

#### 3-3 プレス発表

平成27年度は、学術雑誌 Nature Communications 誌に Highlight 論文として掲載された、「何世代にもわたって細胞分裂できるモデル人工細胞」に関する研究成果、および「玉尾皓平所長就任」に関するお知らせ、計2件のプレス発表を行い、新聞等に掲載されました。

## Ⅱ. 処務の概要

### 1. 役員・評議員に関する事項

#### (1) 理事改選

平成 27 年 6 月 12 日付けで、理事 3 名(生嶋明、茅幸二、加藤伸一)が退任し、新たに 3 名(大峯巖、菊池昇、張紀久夫)が就任。

#### (2) 監事交代

平成 27 年 6 月 12 日付けで、監事 2 名(石川忠司、金原淑郎)が辞任し、新たに 2 名(豊田鐵郎、加藤伸一)が就任。

#### (3) 評議員改選

平成 27 年 6 月 12 日付けで、評議員 11 名(石丸典生、伊藤正男、奥田碩、神尾隆、清水順三、豊田鐵郎、永澤満、松浦剛、水嶋敏夫、山内康仁、横山元彦)が退任し、新たに 10 名(網岡卓二、荒島正、内山田竹志、加藤宣明、加留部淳、新美篤志、濱口道成、藤森文雄、増田義彦、山口千秋)が就任。

#### (4) 所長就任

平成 28 年 1 月 1 日付けで、理事玉尾皓平が所長に就任。

平成 28 年 3 月 31 日現在の役員は、別表 1.「役員・評議員名簿」を参照。

### 2. 職員に関する事項

平成 28 年 3 月 31 日現在の職員は、別表 2.「研究職員名簿」、および別表 3.「職員名簿」を参照。

### 3. 役員会に関する事項

平成 27 年度は、通常理事会 2 回、定時評議員会 1 回に加え、書面審議による理事会 2 回、臨時理事会 1 回、臨時評議員会 1 回を開催いたしました。

表 12 理事会、評議員会の開催状況

役員会	開催年月日	議案	結果
第 16 回理事会	平成 27 年 5 月 28 日(木)	1)平成 26 年度 事業報告書承認の件 2)平成 26 年度 決算報告書承認の件 3)理事候補者名簿の件 4)評議員候補者名簿の件 5)監事候補者名簿の件 6)第 9 回評議員会開催の件	承認 承認 承認 承認 承認 可決

第9回評議員会	平成27年 6月12日(金)	1)平成26年度 事業報告書承認の件 2)平成26年度 決算報告書承認の件 3)理事選任の件 4)評議員選任の件 5)監事選任の件	可決 可決 可決 可決 可決
第17回理事会 (書面審議)	平成27年 6月19日(金)	1)代表理事(理事長)及び業務執行理事(常務理事)選定の件 2)業執行理事(常務理事)の報酬額について 3)『企画・運営委員会運営規程』変更の件 4)企画・運営委員会委員及びフェロー選考委員会委員選定の件	可決 可決 可決 可決
第18回理事会	平成27年 12月3日(木)	1)業務執行理事(所長)選定の件 2)業務執行理事(所長)の報酬額について 3)番号法に対応するための規程の制定	可決 可決 可決
第19回理事会 (書面審議)	平成28年 2月10日(水)	1)第10回評議員会開催の件	可決
第20回理事会	平成28年 3月9日(水)	1)平成28年度 事業計画書の件 2)平成28年度 収支予算書の件 3)事務局長交代の件 4)特定資産計上について	可決 可決 可決 承認
第10回 評議員会	平成28年 3月9日(水)	1)特定資産計上について	可決

#### 4. 許可・認可・証明等に関する事項

該当事項無し

#### 5. 契約に関する事項

- (1) 技術協力契約 株式会社豊田中央研究所(平成27年4月1日)
- (2) 事業用借地権設定契約のための覚書 トヨタ自動車株式会社(平成26年4月1日)
- (3) 監査契約書 後藤公認会計士事務所(平成27年4月1日)
- (4) 物品使用貸借契約書 国立大学法人東京工業大学(平成26年12月1日)
- (5) 出向社員の取扱に関する協定書 株式会社豊田中央研究所(平成27年7月31日)

## 6. 主務官庁の指示に関する事項

該当事項無し

## 7. その他重要事項

該当事項無し

## 別表 1

## 役員・評議員名簿

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(理事の任期:平成 27 年 6 月 12 日～平成 29 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏名	現職等	備考
理事長 (代表理事)	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社 名誉会長	
所長 (業務執行理事)	玉尾皓平	国立研究開発法人 理化学研究所 研究顧問 グローバル研究クラス長	
常務理事 (業務執行理事)	齋藤 卓	株式会社豊田中央研究所 特別顧問	常勤
	石川宣勝	株式会社豊田中央研究所 元代表取締役所長	
	石橋善弘	国立大学法人名古屋大学 名誉教授	
	井上博允	国立大学法人東京大学 名誉教授	
	大峯 巖	自然科学研究機構分子科学研究所 所長	
	菊池 昇	株式会社豊田中央研究所 代表取締役所長	
	北川禎三	兵庫県立大学 特任教授 Spring8 ナノテク研究所	
	榊 裕之	学校法人豊田工業大学 学長	
	庄子哲雄	国立大学法人東北大学 教授	
	高橋 実	愛知県公立大学法人 理事	
	張 紀久夫	国立大学法人大阪大学 名誉教授	
	豊田章男	トヨタ自動車株式会社 取締役社長	
	豊田幹司郎	アイシン精機株式会社 取締役会長	
	山本 尚	学校法人中部大学 教授	

(監事の任期:平成 24 年 6 月 12 日～平成 28 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏名	現職等
監事	加藤伸一	トヨタ自動車株式会社 顧問
	豊田鐵郎	株式会社豊田自動織機 取締役会長
	好川純一	トヨタ紡織株式会社 特別顧問

(評議員の任期:平成 27 年 6 月 12 日～平成 31 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等
評議員	網岡卓二	トヨタ車体株式会社 取締役会長
	荒島正	豊田合成株式会社 取締役会長
	池淵浩介	トヨタ自動車株式会社 顧問・技監
	内山田竹志	トヨタ自動車株式会社 取締役会長
	大橋正昭	愛知製鋼株式会社 顧問
	加藤宣明	株式会社デンソー 取締役会長
	加留部 淳	豊田通商株式会社 取締役社長
	齋藤明彦	株式会社デンソー 顧問
	新宮威一	ダイハツ工業株式会社 顧問
	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 名誉会長
	豊田周平	トヨタ紡織株式会社 取締役会長
	豊田達郎	トヨタ自動車株式会社 顧問
	新美篤史	株式会社ジェイテクト 取締役会長
	濱口道成	国立研究開発法人 科学技術振興機構 理事長
	深谷紘一	株式会社デンソー 相談役
	藤森文雄	アイシン精機株式会社 取締役副会長
	増田義彦	株式会社豊田中央研究所 代表取締役
	森田章義	愛知製鋼株式会社 顧問
	安田善次	トヨタ自動車東日本株式会社 名誉顧問
	山口千秋	東和不動産株式会社 取締役社長



## 別表 2

## 研究職員名簿

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

資 格	氏 名	就 任 年 月	備 考
フェロー	中村 新男	平成 24 年 4 月	常 勤
	西田 信彦	平成 25 年 4 月	常 勤
	三宅 和正	平成 25 年 4 月	常 勤
	森永 正彦	平成 25 年 4 月	常 勤
	上田 寛	平成 26 年 4 月	常 勤
	野上 正行	平成 26 年 4 月	常 勤
	河本 邦仁	平成 27 年 4 月	常 勤
	小島 憲道	平成 27 年 4 月	常 勤
客員フェロー	菅原 正	平成 25 年 4 月	非 常 勤
	美宅 成樹	平成 25 年 4 月	非 常 勤
	植田 憲一	平成 26 年 4 月	非 常 勤
	太田 隆夫	平成 26 年 4 月	非 常 勤
	岩澤 康裕	平成 27 年 4 月	非 常 勤
	齋藤 軍治	平成 27 年 4 月	非 常 勤
	竹添 秀男	平成 27 年 4 月	非 常 勤

## 別表 3

## 事務職員名簿

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

所 属	氏 名	就任年月	担当業務(役職)
事 務 局	青木 博史	平成 24 年 2 月	事務全般(事務局長)
	藤川 武敏	平成 27 年 2 月	事務全般(主査)
総務グループ	野口 あゆみ	平成 20 年 4 月	一般事務
	浜辺 宏子	平成 26 年 7 月	一般事務
研究支援グループ	池田 利明	平成 26 年 2 月	テクニカルスタッフ
	宮下 政則	平成 27 年 9 月	テクニカルスタッフ
	鈴木 教友	平成 28 年 2 月	テクニカルスタッフ
	八木 雄二	平成 28 年 3 月	テクニカルスタッフ

## 附属明細書について

平成27年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成28年5月  
公益財団法人 豊田理化学研究所